YAMAHA
Make Waves

ヤマハ株式会社　会社案内 2020

ヤマハの歴史は1887年、創業者である山葉寅楠がリードオルガンの
修理をきっかけとして、オルガン製作に成功したことに始まります。
以来130年以上にわたって、楽器を中心とするさまざまな製品・サービスを
提供し続け、世界中で広く親しまれるブランドとなりました。

私たちは
音・音楽を原点に培った技術と感性で
新たな感動と豊かな文化を
世界の人々とともに創りつづけます。

ヤマハ(株)企業ミュージアム「イノベーションロード」

Message
from the President

「なくてはならない、個性輝く企業」への進化を目指し
“技術×感性”で新たな価値を提案し続けます。

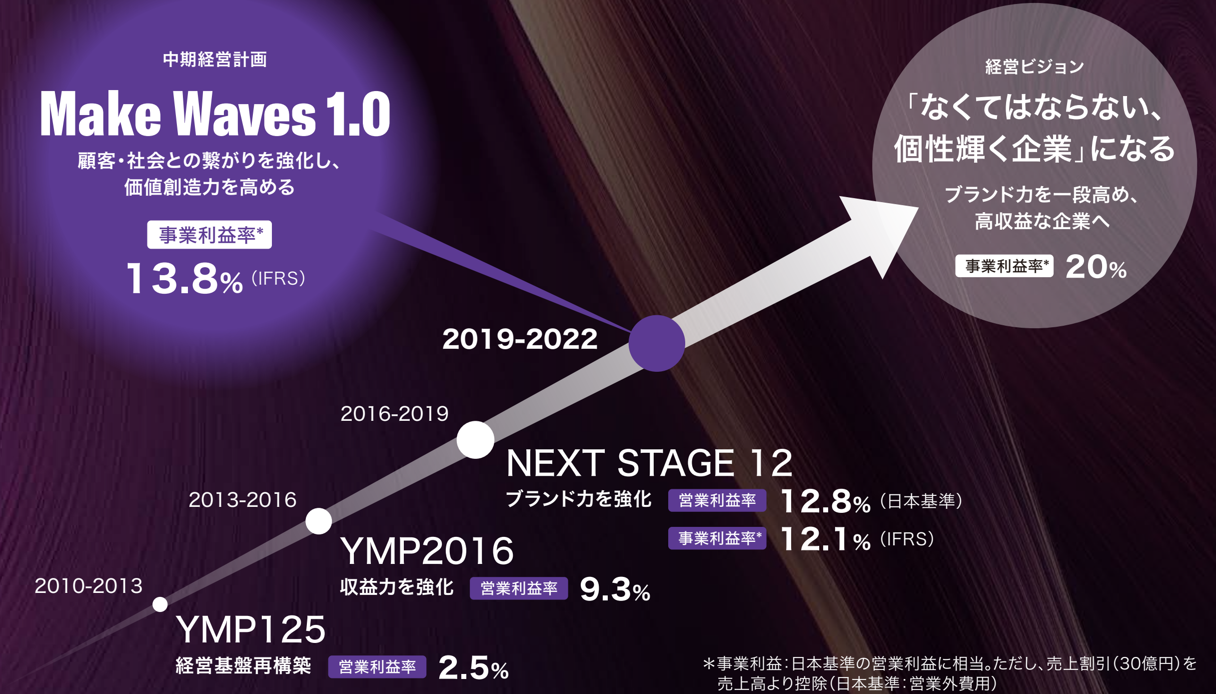
ヤマハグループは「感動を・ともに・創る」を企業理念として共有し、音・音楽を通じて人々のこころ豊かな生活に貢献することを目指しています。ブランドプロミスには、お客様が心震わす瞬間を表現した「Make Waves」を掲げ、1887年の創業以来受け継がれてきたお客様の目線を大切にしたものづくりをさらに推し進め、お客様の心に響く製品・サービスを届けていく決意を示しています。

当社は中長期的に目指す姿として、経営ビジョン「『なくてはならない、個性輝く企業になる』〜ブランド力を一段高め、高収益な企業へ」を定め、着実に進化しています。2019年4月にスタートした3カ年の中期経営計画「Make Waves 1.0」では、「顧客・社会との繋がりを強化し、価値創造力を高める」ことを基本戦略としました。デジタル化の加速やAI、IoTの進化により、人々の暮らしは便利になる一方で、物質的な豊かさだけでなく、より精神的な満足や本質が求められる時代が到来しています。企業経営においてもサステナブルな社会の実現に貢献することへの要請はさらに高まり、それに応えることが企業の価値創造に繋がるという認識が広まっています。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響による多くの困難に直面し、人々の生活様式や価値観は大きく変化しています。このような変化を、"技術×感性"を強みとするヤマハにとっては変革を起こし時代を先取りするチャンスと捉え、新たな価値を生み出すとともに、お客様ともっと繋がることで、それぞれのライフステージに応じた価値を提案し続けます。

私たちヤマハグループは、お客様それぞれの挑戦への勇気や情熱を応援し続ける企業でありたいと考えています。これからも皆様の期待にお応えし、末永くお付き合いいただける会社であり続けられるよう誠心誠意努力してまいりますので、何卒ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2020年10月

ヤマハ株式会社
代表執行役社長　中田卓也



＊事業利益：日本基準の営業利益に相当。ただし、売上割引（30億円）を売上高より控除（日本基準：営業外費用）

MOVIE MOVIEアイコンをクリックすると動画が再生されます

MAKE WAVES — YAMAHA BRAND PROMISE

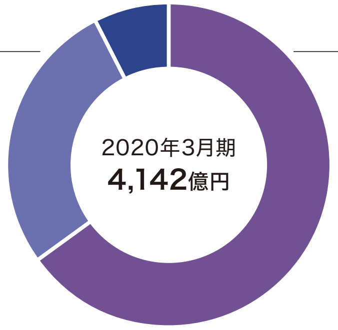
私たちは、個性、感性、創造性を発揮し、
自ら一歩を踏み出そうとする人々の勇気や情熱を後押ししていきます。

“Wave”とは、内なる想いを自分なりに表現して周りにインパクトを与え、
日々の積み重ねによって成長し、より広い世界と響き合うために、
自ら新たな一歩を踏み出す時に感じるワクワクと心震える状態を表しています。

ヤマハの事業概要

「楽器事業」「音響機器事業」「部品・装置／その他の事業」の3つの領域で、グローバルに事業を展開しています。

事業別売上収益



部品・装置事業ほか
305 億円 (7.4%)

- 部品・装置事業（電子デバイス／自動車用内装部品／FA機器）
- ゴルフ用品事業
- リゾート事業

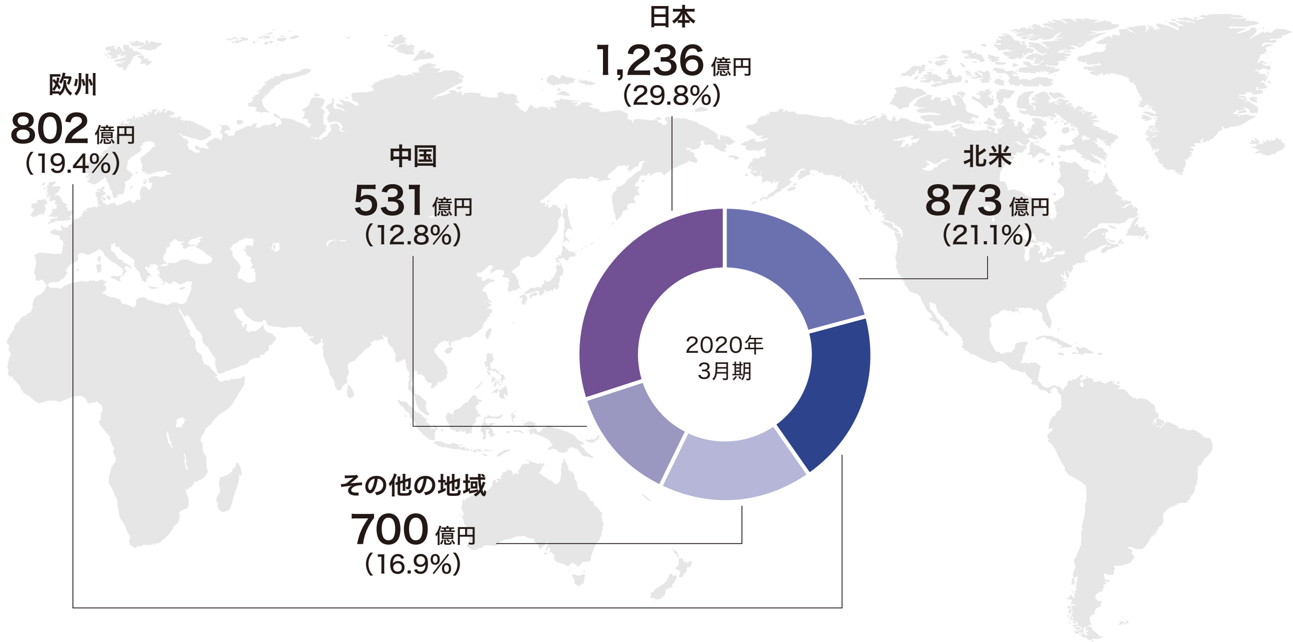
音響機器事業
1,144 億円 (27.6%)

- 業務用音響機器（ミキサー／シグナルプロセッサー／パワーアンプ／スピーカー etc.）
- 音楽制作機器・ソフトウェア（音楽制作用ソフトウェア／オーディオインターフェース／コントローラー etc.）
- AV機器（ホームシアターシステム／AVアンプ／スピーカーシステム／システムコンポ etc.）
- 音声コミュニケーション機器
- ネットワーク機器
- 防音室

楽器事業
2,694 億円 (65.0%)

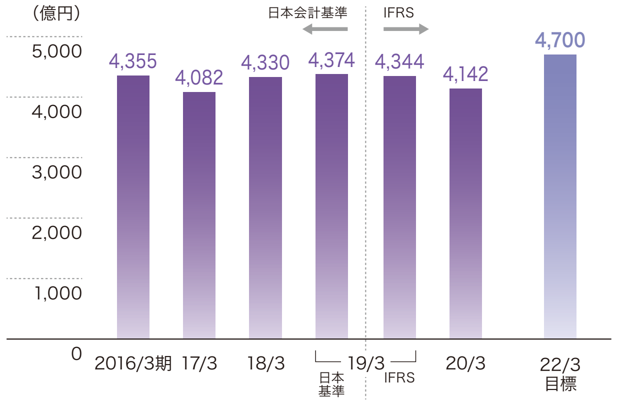
- 鍵盤楽器（ピアノ／電子ピアノ／電子オルガン（エレクトーン®）／ポータブルキーボード／シンセサイザー etc.）
- 管楽器（トランペット／フルート／クラリネット／サクソフォン etc.）
- 弦楽器（ギター／ベース／バイオリン etc.）
- 打楽器（ドラム／ティンパニ／マリンバ etc.）
- 教育楽器（リコーダー／鍵盤ハーモニカ（ピアニカ®）etc.）
- 音楽教室・英語教室
- メディア・エンタテインメント（楽譜・書籍出版／音楽配信／音楽プロダクション／音楽出版／レーベル事業）

地域別売上収益



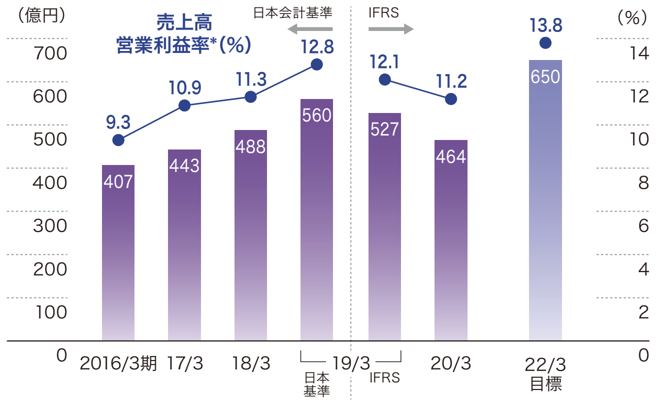
売上高*の推移

＊19/3期（IFRS）以降は売上収益



営業利益*の推移

＊19/3期（IFRS）以降は事業利益（率）



事業紹介

音・音楽を中心にした事業を通じて磨いてきた感性と多彩な技術を融合し、
楽器、音響機器、部品・装置などの事業領域で、
ヤマハならではの価値を生み出しています。

楽器事業

楽器の製造・販売、音楽教室等の運営、音楽・映像ソフトの制作・販売など多彩な事業を展開。初心者からプロフェッショナルまで幅広いユーザーに評価されるこれらの製品・サービスは、アーティストとの対話により進める研究開発やグローバルに展開するきめ細かな営業・サービス活動に支えられています。

鍵盤楽器

130年を超える歴史と実績によって培われた熟練技能に裏付けられたアコースティックピアノから、先進のデジタル技術を駆使した電子楽器、そして、これらの技術の融合により生まれたハイブリッドピアノまで豊富なラインアップを提供しています。

コンサートグランドピアノ
CFX®

ハイブリッドピアノ
AvantGrand® N3X

電子ピアノ
Clavinova® CLP-785PE

Bösendorfer（ベーゼンドルファー）
グランドピアノ
Secession 214VC

エレクトーン
STAGEA® ELS-02C
（カスタムモデル）

ステージキーボード
YC61

管楽器

管楽器製造50年の間に培ったクラフトマンシップと、木材・金属を精密に加工する生産技術力を結集して、最高の音色、響きと吹奏感を生み出しています。

カスタムトランペット
Xeno® Artist Model
YTR-9335CHS

カスタムテナーサクソフォン
YTS-875EX

カジュアル管楽器
Venova® YVS-100

自宅から音楽でつながる ―オンライン遠隔合奏サービス SYNCROOM（シンクルーム）

MOVIE　MOVIEアイコンをクリックすると動画が再生されます

独自の低遅延音声データ伝送技術により、インターネット回線を介した遠隔地間の音楽合奏を実現し、最大5拠点のユーザーがオンラインセッションを楽しめるサービスSYNCROOMを公開。自宅などのパソコンにアプリケーションをインストールし、ユーザー登録を行うことで、誰もが気軽に遠隔セッションを楽しむことができます。新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、自宅などから安心して合奏を楽しむ一助となることを願っています。

「SYNCROOM」アプリ画面イメージ

弦楽器

アコースティック、エレクトリックに加え、ヤマハ独自のサイレント™シリーズまでカバーする弦楽器は、多くの人に演奏する楽しみを提供しています。

アコースティック
バイオリン
Artida®
YVN500S

エレクトリック
バイオリン
YEV104

アコースティックギター
FG Red Label FG5

エレキギター
REVSTAR® RSP20CR

Line 6（ラインシックス）
ギター・プロセッサー
HX Stomp

打楽器

世界中のトップアーティストとともに追求してきた音・打感、そして高い信頼を得てきた操作性・堅牢性により、プレイヤーのパフォーマンスを最大限に引き出します。

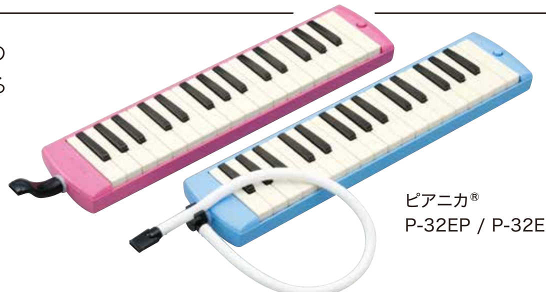
アコースティックドラム
Live Custom®
Hybrid Oak

コンサートマリンバ
YM-6100

電子ドラム
DTX® 452KS

教育楽器

ヤマハは、リコーダーやピアニカなどの教育楽器の提供を通じて、子どもたちに音楽の楽しさ、演奏する喜びを伝えています。



ピアニカ®
P-32EP / P-32E

ソプラノリコーダー
YRS-401

ecodear
Plant-based PLA Compound Resin

音楽教室・英語教室

世界の40以上の国と地域で幼児から大人までを対象に音楽教室を展開し、楽器演奏人口の拡大と音楽文化の普及に貢献。英語教室は、歌やリズムで楽しく生きた英語が身につくヤマハならではのレッスンが人気です。

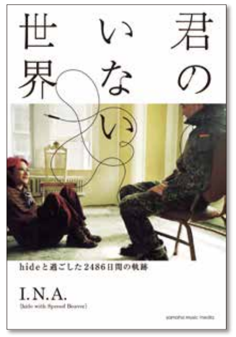
ヤマハ音楽教室

ヤマハ英語教室

メディア・エンタテインメント

楽譜出版、音楽および楽譜の配信、アーティストマネジメント、音楽出版（著作権等の管理）、レコードレーベル等、ヤマハのエンタテインメント関連の事業を幅広く展開しています。

音楽ソフト



書籍

音響機器事業

「音・音楽」をコアとして培ったデジタルとアコースティックの技術を生かし、業務用からコンシューマー向けまで多彩なソリューションを提供しています。業務用音響機器、音楽制作機器・ソフトウェア、ホームオーディオ機器、音声コミュニケーション機器、ネットワーク機器、防音室まで幅広い製品で構成されています。

業務用音響機器

オーディオネットワーク技術を生かしたヤマハの業務用音響機器。世界の著名なホール、劇場、コンサート会場などに導入されているだけでなく、店舗、会議場などの商業空間に向けた音のトータルソリューションも提案しています。

NEXO（ネキソ）
スピーカーシステム
STM™シリーズ

デジタルミキシングシステム
RIVAGE® PMシリーズ

ポータブルPAシステム
STAGEPAS 1K

スピーカーシステム
VXS1ML

スピーカーシステム
VXC2F

アドバンスト・プロダクション・システム
Nuage®

音楽制作機器・ソフトウェア

ソフトウェア技術とシームレスに融合した音楽制作機器は、音楽をつくる楽しみを身近にし、より表現力豊かな音楽制作を可能にしています。

Steinberg（スタインバーグ）
デジタル・オーディオ・ワークステーション・ソフトウェア
Cubase® Pro 10.5

世界中の会場でコンサートやイベントを支える業務用音響機器

MOVIE
MOVIEアイコンをクリックすると
動画が再生されます

ヤマハの業務用音響機器は、音質の良さやレスポンスの良い操作性、プロフェッショナルな現場で求められる信頼性、最先端のオーディオネットワーク技術などを評価され、小規模なイベントから大型のコンサートホールまで幅広い会場で採用されています。ヤマハのデジタルミキサーやプロセッサーとともに、NEXOのスピーカーシステムやSteinbergのソフトウェアが導入される例も多く、ヤマハグループの総合力を生かしたソリューションを提供しています。また、会議室や店舗などの商業空間向け音響の分野においてもトータルソリューションを提案しています。

米国カリフォルニア州のイーストサイド・クリスチャン教会

主な納入事例

新国立劇場（東京都）
東京国際フォーラム（東京都）
劇団四季キャッツ・シアター（東京都）
ブルーノート東京（東京都）
札幌ドーム（北海道）
兵庫県立芸術文化センター（兵庫県）
ロンドン交響楽団（英国）
フー・ファイターズ ワールドツアー

商業空間向け音響

ジョン・F・ケネディ国際空港（米国）
インターコンチネンタル ダボス（スイス）

ホームオーディオ機器

イヤホン・ヘッドホンから、デスクトップオーディオ、サウンドバー、そして伝統的なHiFiオーディオまで、多彩な音楽の楽しみ方を提案しています。音楽の感動を知り尽くしたヤマハが、目の前でアーティストが演奏しているかのような本物の音体験 ―True Sound― を届けます。

完全ワイヤレスイヤホン
TW-E7A

イヤホン
EP-E70A

デスクトップ
オーディオシステム
TSX-B237

HiFiフラッグシップスピーカー
NS-5000

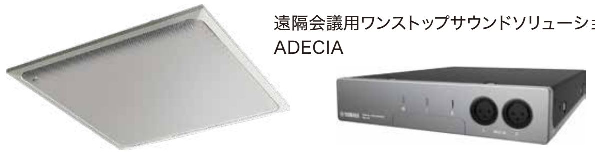
サウンドバー
SR-C20A

ワイヤレス
ストリーミングスピーカー
MusicCast 20

ターンテーブル
GT-5000

音声コミュニケーション機器

遠隔会議用スピーカーフォンを中心に、自宅や企業、学校などさまざまな場所で「まるで遠くの人がそばにいるような」快適な遠隔コミュニケーションを実現します。



遠隔会議用ワンストップサウンドソリューション
ADECIA

ユニファイドコミュニケーション
スピーカーフォン
YVC-330

ネットワーク機器

ルーターや無線LANアクセスポイントなどのネットワーク機器は、中小規模の企業拠点や店舗などに多く採用されています。

無線LANアクセスポイント
WLX212

ギガアクセスVPNルーター
RTX830

防音室

楽器の演奏や音楽制作時のプライベートスタジオ、企業内の開発ルームなどに幅広く使える防音室。遮音だけでなく室内の音が心地よく聞こえるよう配慮されており、用途を問わず快適な空間を作り出します。

アビテックス®
CEFINE® NS 4.3畳タイプ

快適で円滑なオンラインコミュニケーションを実現するために

ヤマハはビジネスコミュニケーション分野での長年の経験と、音響分野で培ってきたノウハウを生かし、音声コミュニケーション機器・ネットワーク機器を提供しています。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、ソーシャルディスタンスの確保が求められ、在宅勤務や遠隔授業などが広がる中、これらの機器の需要が高まっています。今後も、企業や学校などで、また在宅勤務時に、クリアな音声配信環境・安全なアクセス環境を構築するためのソリューションを提供していきます。

ビデオサウンドコラボレーションシステム
for Huddle Rooms CS-700

シャープ製フラットスクリーンと連携し、病院・企業・教育施設などの受付に設置されるCS-700

ヤマハWebサイト「パンデミック対策：ヤマハのテレワークソリューション」https://sound-solution.yamaha.com/solution/telework_01

部品・装置事業ほか

電子デバイス、自動車用内装部品、FA（Factory Automation）機器からなる部品・装置事業と、
ゴルフ用品事業およびリゾート事業でも、楽器の製造・販売を通じて蓄積した技術・ノウハウを生かして、
お客様に満足いただける製品とサービスを提供しています。

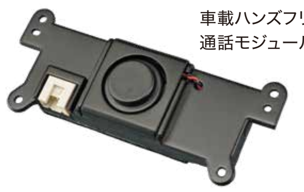
部品・装置事業

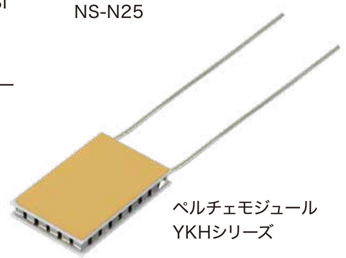
電子デバイス

電子楽器用音源LSIの開発からスタートした半導体は、音源・画像・磁気センサーなど、さまざまな分野に広がっています。また、ペルチェモジュール・熱電発電モジュールなどの熱対策ソリューションを提供しています。新たに、自動車・ヘルスケア・アミューズメント・パソコン市場向けに音の技術を中心とするソリューションを提案していきます。

アミューズメント機器用画像LSI
YGV637

ハイレゾ対応パソコン用スピーカー
NS-N25


車載ハンズフリー
通話モジュール


ペルチェモジュール
YKHシリーズ

自動車用内装部品

ピアノ製造で培われた木材加工や塗装の技術と精密成形技術、デザイン力を融合し、高級車向けに内装部品を提供しています。

天然木材の魅力を生かしたウッドパネル

FA機器

ヤマハの生産技術とシステムエンジニアリングで差別化を図り、信頼性の高い機器を製造しています。

ドラム缶漏れ検査用
ヘリウムリークテスター

電子回路基板用
導通絶縁検査装置

ゴルフ用品事業

ヤマハが持つ技術力と契約プロゴルファーからのフィードバックを生かし、機能と感性を両立させた魅力あるゴルフクラブを開発しています。

ゴルフクラブ
inpres® UD+2
ドライバー

ゴルフクラブ
RMX® 120
ドライバー

リゾート事業

豊かな自然の中で非日常の空間と高品質なサービスを提供し、ヤマハにしかできない豊かな時間を創り出しています。

葛城北の丸®

葛城ゴルフ倶楽部®

デザイン　Design

日本ではデザイン機能を持つ企業が少なかった1963年、ヤマハはデザイン部門を設立しました。以来、国内外のデザイナーやトップアーティストとの協働などを通じて経験と実力を蓄積し、創業100周年を迎えた1987年に、ヤマハデザイン共通のアイデンティティとして「デザインフィロソフィー」を制定しました。このフィロソフィーをもとに生み出されたヤマハの製品は世界的に権威あるデザイン賞を多数受賞しています。

5つのデザインフィロソフィー

INTEGRITY　本質を押さえたデザイン
INNOVATIVE　革新的なデザイン
AESTHETIC　美しいデザイン
UNOBTRUSIVE　でしゃばらないデザイン
SOCIAL RESPONSIBILITY　社会的責任を果たすデザイン

世界的に高い評価を受けるヤマハのデザイン

ステージピアノ
CP88 / CP73

ライブパフォーマンス向けキーボード「CPシリーズ」のアイデンティティーを受け継ぎ、ステージ上で他の楽器と並んでも引けを取らない存在感を放つステージピアノ

reddot winner 2020

アコースティックギター
STORIA®

自身のスタイルを軸に人とのつながりを大切にするミレニアル世代に身近に感じてもらえるよう、見た目の美しさや愛らしさ・演奏しやすさを追求したアコースティックギター

ショルダーキーボード
sonogenic® SHS-500

スケートボードのようにファッションの一部として気軽に使い始めて欲しいという思いから、スポーティーな赤と黒の2色でまとめたショルダーキーボード

reddot winner 2020

カジュアル管楽器
Venova®

音程や演奏性など"音の造形"からデザイナーが参画。楽器としての本質を押さえた上で、常識を打ち破った革新的なデザインを持つ新しいカジュアル管楽器

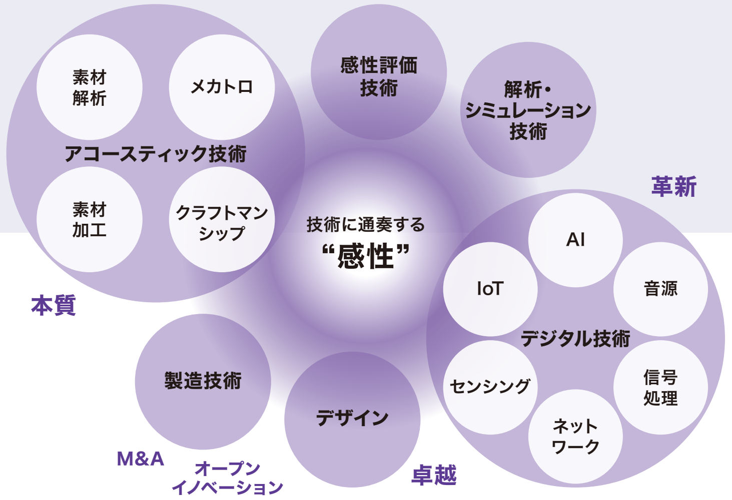
特別展「未来をカタチに ― ヤマハデザインの流儀 ― 」を開催

2019年10月から4カ月間、企業ミュージアム「イノベーションロード」で、2000年代からのデザイン先行開発の歩みを振り返り、変わらないヤマハデザインの姿勢を紹介する特別展を開催。これまで展示会に出展した約30点の作品を展示し、パネルや映像で作品に対する当時の来場者・評論家のコメントなどを紹介しました。継続的な活動を通して培われたヤマハデザインの流儀や、デザイン先行開発から商品化へと受け継がれる「本質」と「革新性」の大切さを来場者に伝えることができました。

ヤマハWebサイト「Yamaha Design」https://www.yamaha.com/ja/about/design/

研究開発 *Research & Development*

世代を超えて受け継がれた熟練技能や音づくりへの感性を根底に、アコースティック楽器製造で独自の技術を積み重ね、デジタル楽器や音響機器の分野で画期的なエレクトロニクス技術を開発してきました。双方の技術を駆使し融合することで、新しい音楽の楽しみ方を提案しています。



ヤマハらしさ
技術 × 感性 で
新たな価値を創造する

ヤマハのコア技術

楽器領域

ヤマハは、より豊かな音を届けるために、木材・金属などの素材の加工をはじめ、鍵盤・アクションのメカニズム、音源や音響に関連する技術の研究を重ねています。

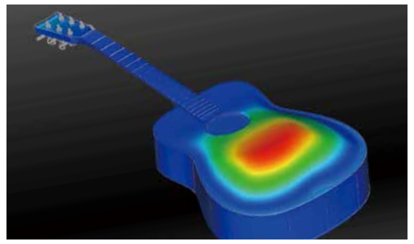
木材改質技術
A.R.E.® (Acoustic Resonance Enhancement)

A.R.E.は短期間で木材を熟成させるヤマハ独自の木材改質技術。温度・湿度・気圧を高精度でコントロールする装置で、使い込まれた楽器のような深みのある音が出る木材へと変化させます。

A.R.E. 処理を施した木材で作られたバイオリン Artida®（アルティーダ）YVN500S

アコースティック楽器における
振動・音響解析の研究

楽器本体の各部分がどのように振動し、その影響で楽器内部や周辺の空気がどのように振動し音が伝わるかなどの解析を、測定技術やシミュレーション技術を駆使しながら進めています。



ギターの表板における振動の解析結果

音源システム
Motion Control Synthesis Engine

AWM2音源とFM-X® 音源を組み合わせたハイブリッド音源と、多彩なコントロールソースで複雑な音の連続変化を実現するMotion Controlにより、サウンドに生き生きとした息吹を与えます。

同システムを採用したシンセサイザーのフラッグシップモデル MONTAGE®

音響機器領域

PA機器やAV機器、ネットワーク機器などにおいては、デジタル信号処理やネットワークの技術を核とした最先端のエレクトロニクス技術を駆使し、付加価値の高い製品を提供しています。

VCM（Virtual Circuitry Modeling）技術で実現した
ハイブリッドマイクプリアンプ

音楽的で空気感豊かなサウンドを作り出します。デジタル段ではRupert Neve Designs社のトランスフォーマー回路とSILKプロセッシングを、ヤマハのVCM技術でモデリングしています。

RIVAGE PM10に搭載されたSILK プロセッシング

快適な遠隔コミュニケーションを実現する
SoundCap® テクノロジー

「収音範囲制限機能」「マイク自動ミュート」「スピーカー音量自動調整」から成るヤマハの新しい音声信号処理技術。周囲の環境音が多く存在するオープンスペースでも、雑音を抑制することで快適な会話を可能にします。

オフィスのあらゆる場面で快適な遠隔会話体験を実現するスピーカーフォン YVC-330

全帯域で統一された音色を実現
HiFiスピーカー振動板

スピーカーの次世代技術を結集。中でも聴き心地の良さと厳密な音の再現にこだわり、ベリリウムに匹敵する音速を実現する新開発の振動板素材を全ユニットに採用することで、全帯域にわたって音色を統一しました。

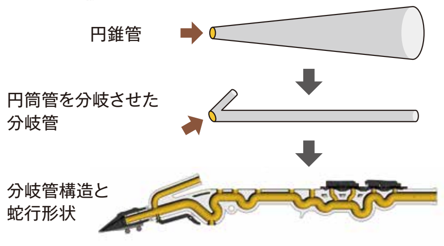
新概念の技術と素材を採用したNS-5000

コア技術の融合

ヤマハは、世界最大の総合楽器メーカーとして幅広い領域の製品を手掛ける中で、世界中の人々が良い音、良い音楽を楽しめるよう、最高の技術を追求してきました。そこから生み出された技術を有機的に結合しながら、新たな価値を創造し、お客様に驚きと感動をお届けすることを目指しています。

カジュアル管楽器 Venova®　―もっと気軽に、もっと自由に

より多くの人に管楽器の演奏を楽しんでほしいという想いから生まれた新しい楽器です。最大の特徴は円筒管を分岐させた「分岐管構造」で、1993年発売のシンセサイザー VL1に搭載されたデジタル信号処理によるバーチャル・アコースティック音源に用いられた「分岐管理論」を応用し、円錐形管楽器のサクソフォンのように広がりを持った豊かな音色を実現しました。



新規事業への取り組み

SoundUD™

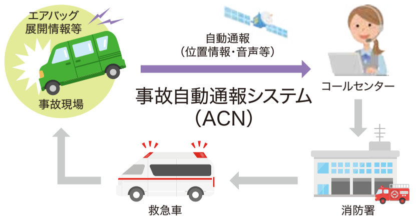
MOVIEアイコンをクリックすると動画が再生されます

音響通信技術をはじめ、Bluetooth® やGPS等とも連動できる「SoundUDトリガー」を用いて音のICT化を実現するテクノロジー。当社が事務局を務めるSoundUD推進コンソーシアムで、330の組織とともに共通規格化し、普及に取り組んでいます。代表的なサービスに、多言語情報保障システム「おもてなしガイド™」やリモート応援システム「Remote Cheerer」があります。

アプリケーションのイメージ

車載通話モジュール

事故自動通報システム（ACN：Automatic Collision Notification）は、事故時にエアバッグと連動して自動的に救助・救急機関へ通報するシステムです。ロシア・欧州ではすでに自動車への搭載が義務化され、日本を含めた各地域でも義務化の検討が進んでいます。ヤマハは事故時の集音性能を高めた車載通話モジュールを開発し、他社との差別化を図っています。



新たなイノベーションを創出する拠点「イノベーションセンター」

ヤマハのコア技術にさらに磨きをかけ、新たなイノベーションを創出するため、最新鋭の研究・実験設備を備えた研究開発拠点「イノベーションセンター」を本社敷地内に設置しています。研究開発部門の技術者約2,500人を集結し、事業領域を超えた製品・技術の開発を加速させます。

企業ミュージアム
「イノベーションロード」

新研究・開発棟の1階に、ヤマハの製品開発の歴史を展示した企業ミュージアムを開設。“ヤマハらしさ”が体現された製品・サービスが音や映像などとともに展示され、過去から現在、そして未来へと続く挑戦の軌跡を、「見て」「聴いて」「触れて」体感できます。

実験室

試作品の技術評価および官能評価を行うための最新鋭の設備を整備。各種スタジオ、楽器の試奏室、無響室、残響室、振動実験室などを設置しています。

（左）無響室　壁面に吸音楔を設け、音の反響を極限まで抑えた測定室
（右）残響室　建築内装材の吸音率や音源の音響パワーレベル測定に使用

製品と技術の歴史

Product and Technology Timeline

1887 / 1900 / 1950 / 1960 / 1970 / 1980 / 1990 / 2000 / 2010

▶ピアノ

1887 オルガン
木材技術 — 木工加工
塗装／化学技術 — 塗装

1900 アップライトピアノ
1902 グランドピアノ
木材人工乾燥
音響技術

1947 ピアノフレームの鋳造開始
鍛造

1967 コンサートグランドピアノ CFシリーズ

1982 ピアノプレーヤ（海外：1987 Disklavier）
自動演奏技術

1991 コンサートグランドピアノ CFⅢS
1993 サイレントピアノ
消音技術
1995 サイレントアンサンブルピアノ
1995 ハイブリッドピアノ GranTouch
ハイブリッド技術

トランスアコースティック技術

2010 コンサートグランドピアノ CFX
2014 トランスアコースティックピアノ

▶管・教育楽器

1914 ハーモニカ

1965 トランペット
金管加工
1967 サクソフォン他

1973 ピアニカ

1990 Xeno シリーズ
1995 サイレントブラスシステム
消音技術

2014 バイオマス由来樹脂製リコーダー
2017 カジュアル管楽器 Venova

▶弦楽器

1941 ギター
木工加工
塗装

1966 エレキギター

1983 エレクトリック・アコースティックギター

1997 サイレントバイオリン

2000 アコースティックバイオリン Braviol

2001 サイレントギター
2008 アコースティックギター L36ARE、L26AREシリーズ
木材改質処理

2011 ギターアンプ THR
VCMテクノロジー
2016 エレクトリックバイオリン YEVシリーズ

2016 トランスアコースティックギター

▶打楽器

1915 木琴

1966 ドラム
エアバッグ成形

1986 電子ドラム PMC1

1996 サイレントセッションドラム

2010 電子ドラム DTX900シリーズ
TCSドラムヘッド

▶電子楽器

音源技術 — アナログ方式
エレクトロニクス技術

1959 エレクトーン D-1

1974 シンセサイザー CSY-1
1975 エレクトーン GX-1
ポリフォニック

1980 ポータブルキーボード
1983 デジタルシンセサイザー DX7

FM音源
1983 電子ピアノ クラビノーバ
1987 ウインドMIDIコントローラー WX7

1993 バーチャル・アコースティック・シンセサイザー VLシリーズ

物理モデル音源

PCM音源
2001 ミュージックプロダクションシンセサイザー MOTIF
2002 イージーギター EZ-EG
2004 エレクトーン STAGEA
2006 電子ピアノ MODUS H01
2008 TENORI-ON
2009 ハイブリッドピアノ AvantGrand
2009 ステージピアノ CP1
VACM音源

2015 モバイルミニキーボード refaceシリーズ

2016 シンセサイザー MONTAGE
Motion Control Synthesis Engine
2017 VOCALOID Keyboard

▶PA機器

デジタル技術

1969 ボーカルアンプシステム VA-120

1974 ミキシングコンソール PM-1000
アナログミキサー

1985 DSPエフェクター SPX90
デジタル・エフェクト

1994 デジタルミキシングコンソール ProMix 01
デジタルミキサー

2000 プロフェッショナルオーディオワークステーション AW4416
オーディオワークステーション
2001 デジタルオーディオミキシングシステム PM1D
2008 ポケットレコーダー POCKETRAK CX

2012 デジタルミキシングコンソール CLシリーズ
Centralogic
VCMテクノロジー
2014 デジタルミキシングシステム RIVAGE
ハイブリッドマイクプリアンプ

▶AV機器

1922 高級手巻蓄音機
塗装
木工加工

1954 HiFiプレーヤー
HiFiオーディオ

スピーカー技術

1967 NSスピーカー
分轄振動型平面スピーカー

1974 高級アンプ B-1
Power-FET

1974 ベリリウム振動板スピーカー NS-1000M
ベリリウム振動板スピーカー
1975 ヘッドフォン

1982 CDプレーヤー CD-1

1986 デジタル・サウンドフィールド・プロセッサー DSP-1
DSP
1988 YST（ヤマハ・アクティブ・サーボテクノロジー）搭載スピーカー AST-1
YST

1995 シアターサウンドシステム
シアターサラウンド

2004 デジタル・サウンド・プロジェクター YSP-1

ビーム制御スピーカー
2006 SR-Bass搭載スピーカー NX-A01

SR-Bass

2010 AVレシーバー AVENTAGE
シネマ DSP HD3

2010 イヤホン
2011 インテリアオーディオ
2015 ワイヤレスミュージックシステム MusicCast
2016 スピーカー NS-5000

▶電子デバイス

1972 エレクトーン用音源LSI
楽器用LSI

1983 FM音源用LSI
1983 グラフィックLSI
PCゲーム用LSI

1999 携帯電話用音源LSI
携帯電話用LSI

2002 デジタルアンプLSI
デジタルアンプLSI
2005 磁気センサー
GMR技術

2018 車載通話モジュール

▶情報通信機器

高集積化技術

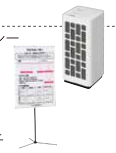
情報処理技術
信号処理技術

1983 MSXパソコン
コンピュータ

1993 CDレコーダー（〜2003）
1993 通信カラオケ
通信カラオケ
1995 リモートルーター
ルーター

2006 音声会議システム
音声会議
心理音響技術

2011 スピーチプライバシーシステム VSP-1
サウンドマスキング



2011 TLFスピーカー
静電型スピーカー
2011 スマートL2スイッチ
2013 無線LANアクセスポイント
2014 ユニファイドコミュニケーションマイクスピーカー
2017 ビデオサウンドコラボレーションシステム
2012 音響通信技術 INFOSOUND
2017 SoundUD
音響通信技術

▶音楽ソフトほか

1921 外国製楽器、楽譜輸入販売

1974 コンピュータによる建築音響シミュレーション
建築音響

1986 家庭向け音楽専用室SRS（音楽室）
1989 防音室 AVITECS
防音室

ネットサービス
2000 着信メロディ配信サービス
2000 電子楽譜配信サービス
DTM
2003 歌声合成ソフト VOCALOID
歌声合成技術
2009 インタラクティブミュージックプレーヤー BODiBEAT

2010 調音パネル TCH
音場制御

2010 iVOCALOID（iPhone、iPad版VOCALOID）
2019 VOCALOID:AI

▶その他

1903 高級木製家具
木工加工
塗装

素材開発

1961 鉄・アルミ合金/銅チタン合金
1962 鉄ニッケル（パーマロイ）合金（〜2007）
パーマロイ

1976 葛城ゴルフ倶楽部オープン
1978 葛城北の丸オープン
イベント・余暇

1984 産業用ロボット
ロボット
1989 自動車内装部品
自動車内装木目部品

1991 薄膜磁気ヘッド（〜2000）
蒸着式薄膜成形
1997 マグネシウム成形部品（〜2010）
マグネシウム鋳造

2015 水素ディテクタ

▶教室／イベント

1954 音楽教室の始まり
音楽 — 音楽教室

1965 海外初の音楽教室開設（米国）
1967 全日本ライトミュージックコンテスト開催（〜1971）
1969 作曲コンクール開催（後のポプコン）（〜1986）
イベント

1972 ジュニアオリジナルコンサート開催

1986 ポピュラーミュージックスクールスタート
1987 英語教室スタート
英語教室
1987 Teens' Music Festival開催（〜2006）
イベント

楽器レンタル
2003 楽器レンタルシステムスタート
2005 中国音楽教室展開
2006 ミュージックレッスンオンラインスタート
オンラインレッスン
2007 Music Revolution開催
イベント

▶スポーツ用品

1959 FRP製アーチェリー（〜2002）
FRP成形

1961 FRP製スキー（〜1997）
FRP成形

1973 テニスラケット（〜1997）

1982 ゴルフクラブ
1986 カーボンコンポジット・ゴルフクラブ アキュラスシリーズ
カーボンコンポジット

チタン鍛造

2002 ゴルフクラブ inpres
2005 ゴルフクラブ inpresX

2014 ゴルフクラブ RMX

▶ヤマハ発動機

木工加工

1921 木製プロペラ
1931 金属製プロペラ
金属技術 — 金属加工

1954 オートバイ試作車（後にヤマハ発動機へ移管）
メカトロニクス技術 — エンジン

1960 FRP製ボート
FRP成形

サステナビリティ *Sustainability*

ヤマハグループは、事業活動を通じて音楽文化の発展と豊かな社会づくりに貢献するとともに、地球規模の環境問題や社会課題への対応を通じて、持続可能な社会構築のための活動 ―サステナビリティ活動― に取り組んでいます。

ヤマハグループのサステナビリティマネジメント

ヤマハグループは、健全で透明性の高い経営と社会・環境に調和した事業活動を通じて、ステークホルダーの皆様の信頼をより確かなものにするとともに、社会の持続的発展に貢献するため、社会的責任の国際的な手引きであるISO26000に基づいてサステナビリティ活動を推進しています。特に中長期的に注力すべき「サステナビリティ重点課題」を、環境や社会への影響の大きさ、ステークホルダーの期待や社会要請に鑑み設定し、トップマネジメントのもと取り組みを推進しています。

グローバル視点でサステナビリティを推進し、持続可能な社会づくりに貢献

ヤマハグループは多様な製品・サービスを世界中のお客様に提供しており、製品・サービスを生み出しお届けするバリューチェーンも世界中に広がっています。国連グローバル・コンパクトの10の行動原則の順守を前提に、グローバル視点でのサステナビリティ活動にグループ全体で取り組み、国際社会の共通目標として掲げられた「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」の達成に、事業を通じて貢献していきます。音楽普及活動を通じた目標4「質の高い教育をみんなに」への取り組みや、持続可能な木材調達による目標12「つくる責任・つかう責任」、目標15「陸の豊かさも守ろう」への貢献をはじめ、SDGsの各目標・ターゲットを意識した製品・サービスの開発や事業プロセスの改善に取り組んでいます。

ヤマハは2011年6月に国連グローバル・コンパクトに署名し、日本におけるローカルネットワークのグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンにおいて、分科会運営などの協力を積極的に行っています。

WE SUPPORT UN GLOBAL COMPACT

環境に配慮した事業活動の展開

「ヤマハグループ環境方針」に基づき、事業活動における環境負荷の低減、環境に配慮した製品・サービスの提供、環境貢献活動を進めています。ISO14001認証取得など環境マネジメント体制を整備し、温室効果ガス排出削減や環境汚染防止、木材資源の保全、エコプロダクツ推進などにグループ一体となって取り組んでいます。

持続可能な木材資源利用に向けた取り組み MOVIE

MOVIEアイコンをクリックすると動画が再生されます

楽器製造を中心に多様多種な木材を使用するヤマハグループは、木材資源の持続的な活用に向けた取り組みを進めています。2015年より、木管楽器に使われる希少木材「アフリカン・ブラックウッド」の調査を原産地のタンザニア連合共和国で開始しました。2016年には国際協力機構（JICA）の支援を受け、現地NGOと連携し住民参加型の森林保全プロジェクトをスタート。アフリカン・ブラックウッドを楽器素材として安定的に調達し、持続的な社会の発展につなげるビジネスモデルの構築を進めています。

2018年1月にタンザニアで実施した苗木の植え付け

音楽文化の発展と豊かな社会づくりへの貢献

ヤマハグループは、音・音楽で培った技術と感性を生かし、より多くの人々が音楽を楽しむことのできる機会づくりや活動支援、音楽、スポーツなどを通じたコミュニティー活性化への取り組みなど、さまざまな活動を実施しています。

楽器演奏の楽しさを子どもたちに伝える「スクールプロジェクト」 MOVIE

楽器演奏の楽しさを伝え、子どもたちの成長を支援する「スクールプロジェクト」を新興国を中心に展開しています。設備や指導者不足、指導カリキュラムなどの問題から、器楽教育が行われるための環境が十分ではない国で、リコーダー、ピアニカなどの楽器と教材、指導者育成をパッケージにして小学校に提供し、学校教育の中で音楽・楽器の楽しさを経験できる環境づくりをサポートしています。インドネシア、マレーシア、ベトナム、インド、ブラジル、UAEに加え、エジプトでの展開も計画しており、国際協力機構（JICA）の「エジプト国初等教育への日本型器楽教育導入案件化調査」の中小企業・SDGsビジネス支援事業や、文部科学省の「EDU-Portニッポン2020年度パイロット事業」応援プロジェクトにも選ばれています。

エジプト政府が設置する「エジプト・日本学校」での授業の様子（写真提供：JICA）

青少年育成のためのオーケストラ・バンド活動支援

犯罪や貧困、格差が深刻な社会問題となっている中南米では、子どもたちが犯罪・非行・暴力に走ることなく健全な精神を育めるよう、国の政策で無償の音楽教育活動が進められ、青少年育成を目的としたオーケストラやバンドが結成されています。ヤマハは「AMIGO Project（アミーゴ プロジェクト）」を通じて支援活動を行い、子どもたちが自分の力で楽器をメンテナンスできるようにワークショップを開催するほか、楽器の修理に対応できる技術者の育成を推進するなど、より良い環境で子どもたちが演奏を続けられるようにサポートしています。現在、メキシコ、コスタリカ、パナマ、コロンビア、ブラジルの5カ国での展開に加え、グアテマラ、ドミニカ共和国でもトライアル活動を開始しました。

ヤマハミュージック・ラテンアメリカが支援する吹奏楽団

自動演奏機能付きピアノでリモート入試をサポート

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外国人が受験のために渡航するのが難しくなったことを受けて、2020年6月、ドイツのフライブルク音楽大学が初めて実施した「リモート入学試験」にヤマハが協力。ドイツと日本、中国をインターネットで接続し、ピアノ演奏の実技試験を行うこの試験では、僅かなタッチの違いや繊細なペダル操作を精確に再現することができる自動演奏機能付きピアノ「Disklavier（ディスクラビア）」が活用され、日本・中国のピアノで弾いた受験者の演奏が、ドイツのピアノでほぼ同時に忠実に再現されました。今後も、離れた場所でも同じ演奏体験を共有できる自動演奏技術の活用を通じて、新たなソリューションを提供していきます。

Disklavierによる上海の受験会場での実技試験

ヤマハ吹奏楽団による地域貢献 MOVIE

1961年に創部し2020年に創立60年目を迎えたヤマハ吹奏楽団は、ヤマハグループの従業員によって構成され、メンバーの多くが楽器製作に携わっていることから「匠のバンド」とも称されています。主な活動として浜松での定期公演やヤマハ野球部の応援演奏、国内外のコンサートやコンクール出場などに加え、演奏活動を通じた地域への貢献を図っています。2019年には、浜松駅で行われる「プロムナードコンサート」に出演。また、CDアルバム「ヤマハのオト～奏でる匠のオト～Ⅲ」を発売し、売上金の一部は日本赤十字社を通じて寄付をしています。

毎年年末に浜松で開催する「ヤマハ吹奏楽団ポップスコンサート」

ヤマハ野球部による野球教室 MOVIE

1958年に創部したヤマハ野球部は、静岡県を代表する企業チームとして、浜松市をはじめ地域社会からも大きな期待が寄せられています。また、スポーツを通じた地域貢献・青少年育成支援として、静岡県内の野球チームへの野球教室を定期的に開催し、子どもたちと交流を深めながら野球の楽しさを伝えています。ピッチングや守備、打撃の基礎についてヤマハ野球部員が手本を示しながら指導するこの野球教室には、毎年約1,000人の子どもたちが参加しています。

子どもたちを指導するヤマハ野球部員

社会課題を見据えた製品・サービスの開発

当社の持つ多彩な技術を生かし、さまざまな社会の課題を解決し、新たな価値を生み出す製品・サービスの開発を進めています。

MOVIEアイコンをクリックすると
動画が再生されます

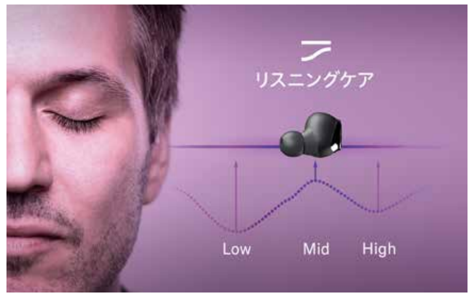
遠隔地や自宅から熱い声援を会場に届けるリモート応援システム

音のユニバーサルデザインを実現するための技術「SoundUD」を活用したリモート応援システム「Remote Cheerer powered by SoundUD」が、サッカー、野球などのプロスポーツで試験採用されています。本システムは、会場に行けない方の応援を、会場に設置したスピーカーを通じて届ける特許出願済みの新技術です。ヤマハは新型コロナウイルス感染症の収束後も、誰もが音楽やスポーツなどを楽しめるユニバーサルデザインに配慮した新しい鑑賞・観戦スタイルを提供していきます。

野球ファンのリモート応援のイメージ

耳への負担を抑える独自技術「リスニングケア」で難聴リスクを低減

WHO（世界保健機関）は、世界の若者（12〜35歳）のおよそ半数にあたる11億人に難聴のリスクがあると指摘しました。人は音量を下げると低域と高域が聴こえにくくなることから、つい音量を上げてしまいがちです。ヤマハのイヤホンに搭載された独自技術「リスニングケア」は、音量に応じて音のバランスを最適化し、音量を抑えても自然で聴きやすい音を再現することで、音量を過度に上げることによる耳への負担を軽減することができ、音楽を楽しむことと聴覚保護の両立を実現しています。



リスニングケアのイメージ

多様性の尊重と働きがいのある職場環境づくり

ヤマハグループは、雇用や人材活用において多様性を尊重し、ワークライフバランスの推進やさまざまな人材育成プログラム、労使間のコミュニケーションを通じて、ともに働く人々が感性・創造性を十分に発揮できる環境整備に努めています。

ダイバーシティの推進とインクルージョン

「ヤマハグループ ダイバーシティ&インクルージョン方針」に基づき、新たな価値創造の源泉である人材の多様性を尊重し、それぞれが能力を十分に発揮できる職場環境づくりを進めています。3カ年の「ダイバーシティ&インクルージョン行動計画」を策定し、両立支援制度や人材育成プログラムの拡充、LGBTなどのセクシャル・マイノリティに関する取り組みなど、さまざまな活動を展開しています。

特に、女性が活躍できる職場環境づくりや仕事と生活の両立支援のための諸制度の整備に取り組んでおり、平均勤続年数は男女とも約20年に及び、男女差もありません。また、2017年には初めて女性の取締役（社外）を、2019年には女性執行役員を選任。今後も女性のキャリアの幅を広げるための施策を積極的に推進していきます。

ダイバーシティ・ワークライフバランス情報を提供する社内サイト

ワークライフバランスの推進

労使による「ワークライフバランス推進委員会」を設置し、会社の成長と社員個々人の充実した生活の実現に向けた取り組みとして、総労働時間の短縮や両立支援制度の整備・拡充を進めています。また、毎年、部門ごとに「ワークライフバランスアクションプラン」を策定し、自律的で生産性の高い働き方を目指す活動を展開しています。

働きがいと生産性双方が向上できるよう、働き方改革も推し進めています。時間制約のある社員の能力発揮や働きがいの向上を目的としたテレワーク、短時間勤務者へのフレックスタイム制度適用、事業所内保育施設「おとのいえ」の開園、上司と部下のコミュニケーション向上を目的にしたリーダーシップスキル研修など、真の働き方改革に向けた施策を展開しています。

プラチナくるみん 子育てサポートしています

2020 健康経営優良法人 Health and productivity ホワイト500

（左）次世代育成支援対策推進法に基づく認定マーク「プラチナくるみん」
（右）経済産業省と日本健康会議主催の「健康経営優良法人」に認定

ヤマハWebサイト「サステナビリティ」 https://www.yamaha.com/ja/csr/

ヤマハの沿革

1887 山葉寅楠が浜松尋常小学校でオルガンを修理、同年にオルガン製作に成功

1889 当社の前身である合資会社山葉風琴製造所を設立

1897 日本楽器製造（株）を資本金10万円にて設立

1900 ピアノの製造を開始

1949 東京証券取引所に株式を上場

1954 オルガンの教室を開講（ヤマハ音楽教室の前身）

オーディオの製造を開始（HiFiプレーヤー）

オートバイの製造を開始

1955 オートバイ部門をヤマハ発動機（株）として分離

1958 メキシコに最初の海外法人 ヤマハ・デ・メヒコを設立

スポーツ用品の製造を開始

1959 電子オルガン（エレクトーン®）の製造を開始

1960 米国に最初の販売子会社 ヤマハ・インターナショナル・コーポレーション（現ヤマハ・コーポレーション・オブ・アメリカ）を設立

1962 リゾート事業を開始

1964 リビング用品の製造を開始（FRP製バスタブ）
※2010年リビング事業子会社の株式を譲渡

1965 管楽器の製造を開始

1966 財団法人ヤマハ音楽振興会発足（2011年、一般財団法人に移行）

西ドイツ（当時）に販売子会社ヤマハ・ヨーロッパを設立

1968 日本初の株式時価発行を実施

1971 半導体の生産を開始
※2015年ファブレス化

1980 ヤマハピアノテクニカルアカデミーを設立

1987 創業100周年を機に、社名を日本楽器製造（株）からヤマハ（株）に変更

ヤマハ英語教室を開始

1989 中国に電子楽器製造・販売子会社 天津ヤマハ電子楽器を設立

2002 中国に投資管理会社 ヤマハ楽器音響（中国）を設立

ドイツに欧州統括会社 ヤマハ・ミュージック・ホールディングス・ヨーロッパ（現ヤマハ・ミュージック・ヨーロッパ）を設立

2005 ドイツの音楽制作用コンピューターソフトウェア開発・販売会社 Steinberg（スタインバーグ）を買収

2007 音楽ソフト事業統括会社（株）ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングスを設立

2008 オーストリアのピアノメーカー Bösendorfer（ベーゼンドルファー）を買収

フランスの業務用スピーカー製造・販売会社 Nexo（ネキソ）を買収

2010 ヤマハ銀座ビルをリニューアルオープン

ピアノ国内生産拠点を掛川工場へ統合

2012 管楽器国内生産拠点を豊岡工場へ統合

創業125周年

2013 国内の楽器・音響機器卸販売および教室事業を行う（株）ヤマハミュージックジャパンを設立

2014 米国の楽器・音響機器メーカー Line 6（ラインシックス）（現ヤマハ・ギター・グループ）を買収

米国の通信・音響機器メーカー Revolabs（レボラブズ）（現ヤマハ・ユニファイド・コミュニケーションズ）を買収

国内における楽器・音響機器の生産事業を製造子会社に承継

2018 研究開発拠点 イノベーションセンターを開設

主要ネットワーク

国内ネットワーク（2020年9月30日現在）

事業内容

■ 販売・サービス　● 製造・開発等　● 音楽ソフト関連

● ヤマハミュージックリテイリング店舗（全国合計36店）

ヤマハ株式会社（本社） 11 12 13 14

ヤマハ銀座ビル

（左）ヤマハミュージックマニュファクチュアリング、（右）同社掛川工場

会社名	所在地
1 北見木材株式会社	北海道紋別郡
2 桜庭木材株式会社	秋田県北秋田市
3 株式会社ヤマハミュージックジャパン	東京都港区
4 株式会社ヤマハミュージックリテイリング	東京都港区
5 ヤマハサウンドシステム株式会社	東京都中央区
6 株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス	東京都渋谷区
7 株式会社ヤマハミュージックコミュニケーションズ	東京都渋谷区
8 株式会社ヤマハリゾート	静岡県袋井市
9 株式会社ヤマハミュージックマニュファクチュアリング	静岡県磐田市
10 ヤマハハイテックデザイン株式会社	静岡県磐田市
11 ヤマハピアノサービス株式会社	静岡県浜松市
12 株式会社ヤマハコーポレートサービス	静岡県浜松市
13 株式会社ヤマハアイワークス *1	静岡県浜松市
14 ヤマハファインテック株式会社	静岡県浜松市

*1　非連結子会社、関連会社

音叉マークに込められた意味

3本の音叉*でヤマハの「技術」「製造」「販売」の3部門の強い協力体制を表すとともに、音叉に象徴される音・音楽を中心に世界（外円）に伸びゆくヤマハのたくましい生命力を表しています。また、音楽の基本である「メロディー」「ハーモニー」「リズム」の調和という意味も込められています。

＊音叉：主に鋼鉄で作られたU字型の棒の中央に柄をつけたもので、音の高さを合わせる調律などに使用する道具

企業ミュージアム・ピアノ工場見学のご案内

イノベーションロード MOVIE

ヤマハ本社事業所 21号館内（浜松市）

https://www.yamaha.com/ja/about/innovation/

MOVIEアイコンをクリックすると動画が再生されます

ピアノ工場見学 MOVIE

ヤマハ掛川工場 ハーモニープラザ（掛川市）

https://www.yamaha.com/ja/about/locations/piano_factory_tour/

※見学は予約制です。予約方法、見学実施日等、詳しくは上記QRコード、URLからご確認ください。

YAMAHA　YAMAHA

「感動」を世界の人々にお届けする、ヤマハ株式会社とヤマハ発動機株式会社

ヤマハ株式会社（当時の日本楽器製造株式会社）の金属加工技術、メカトロニクス技術から生まれたオートバイ部門が分離独立し、1955年、ヤマハ発動機株式会社が誕生しました。両社の経営は互いに独立していますが、ともに掲げる「お客様とともに感動を創り、こころ豊かな生活を実現し、社会と文化に貢献する」という「ヤマハ」ブランドの使命を実現するため、ヤマハは音・音楽を、ヤマハ発動機は多様なモビリティの提供を中心に、それぞれの事業活動を通じてさらなる成長を目指しています。

海外ネットワーク（2020年9月30日現在）

Yamaha Music Europe

雅馬哈電子（蘇州）

Yamaha Corporation of America

雅馬哈楽器音響（中国）

Yamaha Indonesia

会社名	所在地
1 Yamaha Corporation of America	アメリカ・カリフォルニア
2 Yamaha Guitar Group, Inc.	アメリカ・カリフォルニア
3 Yamaha Unified Communications, Inc.	アメリカ・マサチューセッツ
4 Yamaha Artist Services, Inc.	アメリカ・ニューヨーク
5 Yamaha Canada Music Ltd.	カナダ・トロント
6 Yamaha de México, S.A. de C.V.	メキシコ・メキシコシティ
7 Yamaha Music Latin America, S.A.	パナマ
8 アルゼンチン支店	アルゼンチン・ブエノスアイレス
9 Yamaha Musical do Brasil Ltda.	ブラジル・サンパウロ
10 Yamaha Music Europe GmbH	ドイツ・レリンゲン
11 フランス支店	フランス・クロワシーボーブール
12 イタリア支店	イタリア・ミラノ
13 イベリカ支店	スペイン・マドリード
14 UK支店	イギリス・ミルトンキーンズ
15 スカンジナビア支店	スウェーデン・ヨーテボリ
16 スイス支店	スイス・チューリッヒ
17 オーストリア支店	オーストリア・ウィーン
18 ベネルクス支店	オランダ・ヴィアネン
19 ポーランド支店	ポーランド・ワルシャワ
20 トルコ支店	トルコ・イスタンブール
21 Steinberg Media Technologies GmbH	ドイツ・ハンブルク
22 Nexo S.A.	フランス・プライー
23 L. Bösendorfer Klavierfabrik GmbH	オーストリア・ウィーナー・ノイシュタット
24 台湾山葉音楽股份有限公司	台湾・新北
25 雅馬哈楽器音響（中国）投資有限公司	中国・上海

会社名	所在地
26 雅馬哈楽器技術培訓（上海）有限公司	中国・上海
27 雅馬哈貿易（上海）有限公司	中国・上海
28 雅馬哈電子（蘇州）有限公司	中国・蘇州
29 蕭山雅馬哈楽器有限公司	中国・杭州
30 杭州雅馬哈楽器有限公司	中国・杭州
31 天津雅馬哈電子楽器有限公司	中国・天津
32 深圳雅馬哈楽器音響貿易有限公司 *1	中国・深圳
33 Yamaha Music Korea Ltd.	韓国・ソウル
34 Yamaha Music (Asia) Pte. Ltd.	シンガポール
35 Yamaha Music (Malaysia) Sdn. Bhd.	マレーシア・ペタリンジャヤ
36 Yamaha Electronics Manufacturing (M) Sdn. Bhd.	マレーシア・イポー
37 PT. Yamaha Indonesia	インドネシア・東ジャカルタ
38 PT. Yamaha Music Manufacturing Indonesia	インドネシア・東ジャカルタ
39 PT. Yamaha Musik Indonesia (Distributor)	インドネシア・中央ジャカルタ
40 PT. Yamaha Music Manufacturing Asia	インドネシア・ブカシ
41 PT. Yamaha Musical Products Asia	インドネシア・ブカシ
42 PT. Yamaha Musical Products Indonesia	インドネシア・パスルアン
43 PT. Yamaha Electronics Manufacturing Indonesia	インドネシア・パスルアン
44 Siam Music Yamaha Co., Ltd. *1	タイ・バンコク
45 Yamaha Music Vietnam Company Ltd.	ベトナム・ホーチミン
46 Yamaha Music India Pvt. Ltd.	インド・グルグラム *2
47 Yamaha Music Gulf FZE	UAE・ドバイ
48 Yamaha Music (Russia) LLC.	ロシア・モスクワ
49 Yamaha Music Australia Pty. Ltd.	オーストラリア・メルボルン

*2　製造拠点はインド・チェンナイ 46

会社情報

会社概要（2020年3月末現在）

会社名	ヤマハ株式会社
本社	静岡県浜松市中区中沢町10番1号
創業	1887年（明治20年）
設立	1897年（明治30年）10月12日
代表執行役社長	中田　卓也
資本金	285億34百万円
連結売上高	4,142億27百万円
連結従業員数	20,203人（ほか平均臨時雇用者数8,064人）
地域別従業員数	日本 5,623人、北米 781人、 欧州 1,134人、中国 5,221人、 その他 7,444人
子会社数	61社（うち連結対象57社）
関連会社数	4社
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部（証券コード7951）
Webサイト	https://www.yamaha.com/ja/

役員（2020年9月1日現在）

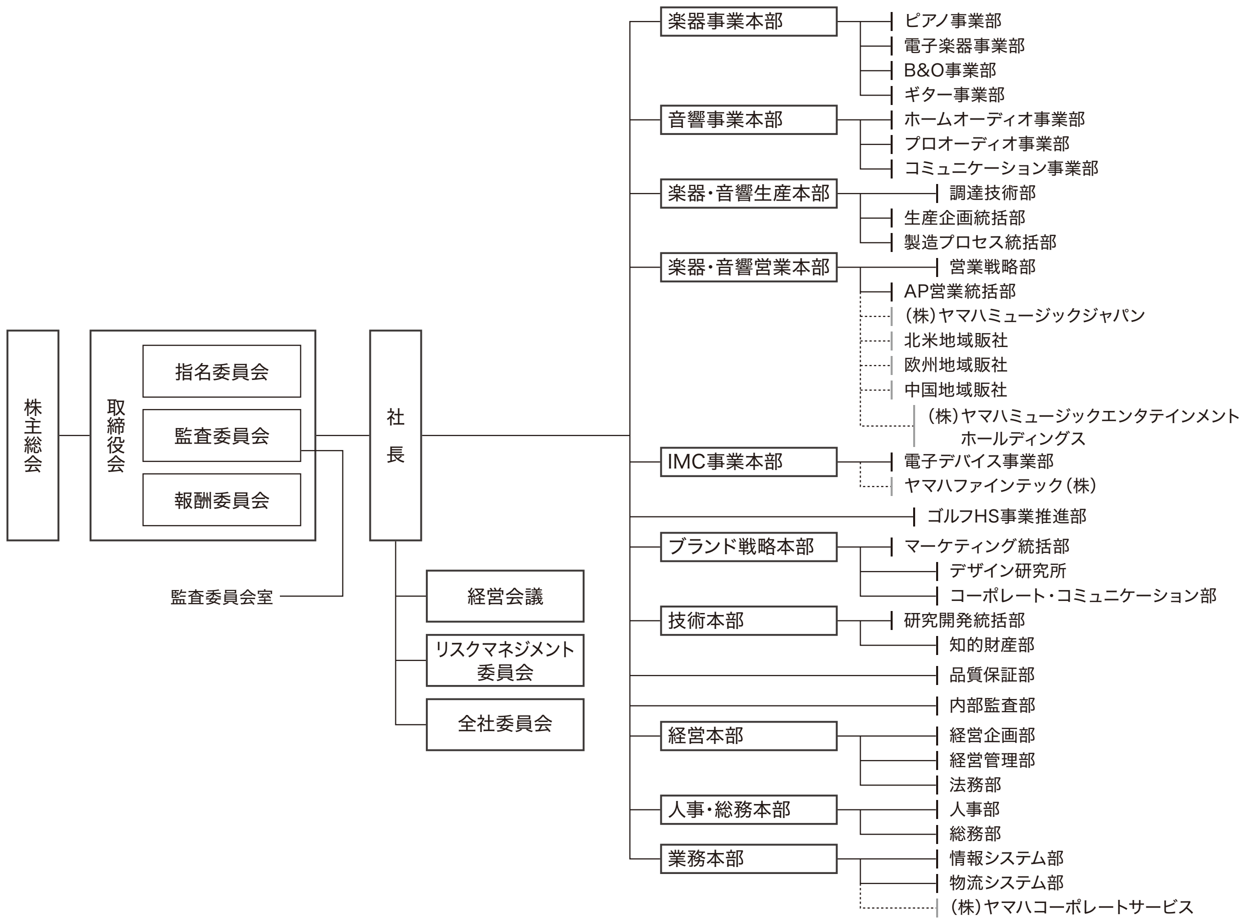
取締役

取締役	中田　卓也	指名委員会、報酬委員会
取締役	山畑　聡	
社外取締役	中島　好美	指名委員会、監査委員会、報酬委員会
社外取締役	福井　琢	監査委員会
社外取締役	日髙　祥博	指名委員会、報酬委員会
社外取締役	藤塚　主夫	監査委員会
社外取締役	Paul Candland（ポール・キャンドランド）	指名委員会、報酬委員会

執行役

代表執行役社長	中田　卓也	ブランド戦略本部長
常務執行役	川瀬　忍	楽器・音響生産本部長 兼音響事業本部長
常務執行役	山畑　聡	経営本部長 兼人事・総務本部長
執行役	藤井　茂樹	IMC事業本部長 兼技術本部長
執行役	山口　静一	楽器・音響営業本部長
執行役	鶴見　照彦	楽器事業本部長

組織図（2020年9月1日現在）



ヤマハフィロソフィー

「ヤマハフィロソフィー」は、「企業理念」「顧客体験」、
そして「ヤマハクオリティー（品質指針）」「ヤマハウェイ（行動指針）」からなる
ヤマハグループの理念体系です。
私たちは、常にヤマハフィロソフィーを心のよりどころにしながら、
お客様の視点に立ち、期待を超える製品とサービスを生み出すことで、
未来に向かって新たな感動と豊かな文化を創りつづけます。

◆ 企業理念

ヤマハグループは何のために存在するのか、何に向かって仕事や経営を行うのかを示しています。

◆ 顧客体験

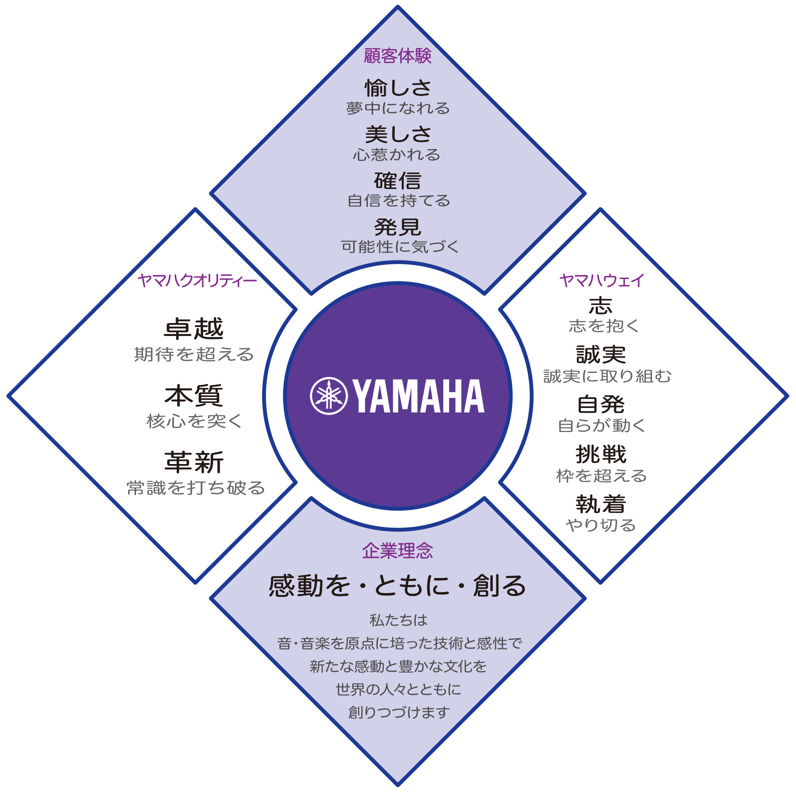
企業理念をお客様の視点から具体的に示したもので、お客様がヤマハグループの製品・サービスを手にし、使用された時に、心と五感で感じていただくことができる体験を明示したものです。

◆ ヤマハクオリティー（品質指針）

企業理念を具現化するために、製品・サービスに込めたこだわりや、モノづくりに対する基本的な考え方を指針として示しています。

◆ ヤマハウェイ（行動指針）

企業理念を具現化するために、ヤマハグループの全従業員が日々、何を意識し、どのように行動すべきかを指針として示しています。



YAMAHA

Make Waves

ヤマハ株式会社　コーポレート・コミュニケーション部　https://www.yamaha.com/ja/　2020年10月発行

FSC
www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C019074

TOYO INK
nonVOC™

-CM201